

第 45 回東北建築賞業績賞選考報告

選考委員長 飛ヶ谷 潤一郎

「竹駒神社馬事博物館を始めとする社殿及び境内に関する一連の調査及び修復整備事業」 受賞者 竹駒神社

竹駒神社は承和 9 (842) 年の草創と伝えられる古社である。本殿、幣殿、拝殿は平成 2 年に放火により焼失したが、その後ただちに社殿は復興された。また、焼失を免れた唐門、楼門、境内社などの古建築に対しては、将来的な保存と活用を視野に入れた継続的な調査・保存修理を行うことを目的として事業が展開された。その結果、平成 31 年に唐門が県指定文化財に、令和 2 年に境内社三社（愛宕神社、八幡神社、総社宮）が岩沼市指定文化財となった。その後、令和 3 年に馬事博物館（昭和 13 年竣工）が国の登録有形文化財となった。

これらの事業の成果は報告書としてまとめられ、特に『竹駒神社馬事博物館建物調査整備報告書』では、設計者や設計監理者などの組織、戦前期の日本趣味的な建築様式、物資不足のなかでの構造や内外装の仕上げ、建具や家具について、総合的に、科学的に、しかも緻密に調査された成果が報告されている。さらに旧近江セールズ社製の建物金具の使用が示されるなど、我が国建築の近代化の一端が明らかにされ、各方面から大きな注目を集めた。

竹駒神社におけるこうした一連の事業は、歴史的建造物の保存のみならず、市の中心部に位置する境内地を都市景観の美化や活性化にもつなげようとするもので、その過程で明らかにされた建築的様相は当該学術分野に大きく寄与するものである。

以上より、本業績は東北建築賞（業績賞）に値すると認める。

「福島の文化財的建造物の保存管理に関する業績」 受賞者 三浦工匠店

三浦工匠店を昭和 46 年に創業し、現在は取締役会長である三浦藤夫氏は、これまで 50 年にわたって、全国を対象とした「日本建築セミナー」の二級建築士・学科 WEB コースの講師として、木造建築在来工法に関する継手仕口の実際について後進の指導にあたってきた。また、福島県内の伝統的建築物の状況を日々確認している。

昭和 63 年に二代目社長に就任した三浦慶顕氏は、父の意思を継ぎ古建築の復原修復に努めている。さらに在来工法を後世に伝えるべく、日々研鑽を重ねている。その証として、平成 27 年の「県建築文化章 復興賞」を皮切りに、数々の受賞をするに至っている。

具体的な事例としては、旧亀岡家住宅の補修工事や、梁川八幡神社の復元改修工事などが挙げられ、その範囲は多岐に及ぶ。このように親子二代にわたり地域の伝統をまもるべく、文化的土壌を保全すべく、その中心的立場として活動している姿勢は、ヘリテージ・マネージャーの参考とすべき活動として称讃に値する。

以上のように、福島県の古建築の保存管理に長年にわたって多大な貢献をしたことから、本業績は東北建築賞（業績賞）にふさわしいと判断した。

第 45 回東北建築賞業績賞選考委員会

委員長：飛ヶ谷潤一郎

委員：浅里和茂、石山 智、有川 智、浦部智義、村上早紀子、赤井仁志、後藤伴延（常議員）